

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業
グローバル展開プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）
評価用研究成果報告書

| | | | | | |
|--------|--------|---------------------------------------|-----------------|------|--|
| 課題 | | グローバル社会における排他主義とデモクラシーに関する総合的研究 | | | |
| 研究テーマ名 | | 「難民危機」の時代におけるレイシズムの変容とその克服策に関する国際比較研究 | | | |
| 研究代表者 | 所属機関 | 神戸大学 | | | |
| | 部局 | 大学院法学研究科 | | | |
| | 役職 | 教授 | 氏名 | 飯田文雄 | |
| 委託研究費 | | 単位：千円 | | | |
| 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 令和元年度 | | |
| 3,328 | 9,393 | 5,452 | 4,352 | | |

1. 研究の概要

研究目的、研究内容、成果や波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

本研究の目的は、難民危機や米国の不法入国者問題が先鋭化した 2010 年代後半以降における日米欧各国のレイシズムの具体的な形態やその対応策の変容について、同時代の各国事例相互や各国の 2000 年以降の歴史的事例との比較を行い、現代民主主義の安定的発展を可能にするレイシズム対応策を考察することにある。そのため本研究では、レイシズムの具体形態をヘイトスピーチと国粹主義的政党活動の二つに分け、政治哲学と政治史学の先行研究を分析し、難民・レイシズム問題の分析に有益な分析枠組みを構築した。加えて、本研究では、日米欧各国での現地調査や研究報告、日本への研究者招聘などの活動を行い、2010 年代後半におけるレイシズムとその対応策の変容を総合的に考察した。

その結果、本研究からは、まずヘイトスピーチに関して、その増大は非正規入国者の数的増加よりも非正規入国者への多数派社会からの強い脅威感の発生に依存すること、その増大は近年 EU の人権擁護規範を典型例とする国際的規範の圧力によっても一定程度抑制されていること、今後ヘイトスピーチのような可視的差別からマイノリティーに不利に設計された政治的制度やルールの合法的運用を通じた構造的差別への移行化が懸念されること、等の新しい知見が獲得された。また国粹主義政党に関しては、今日の国粹主義政党は他民族の絶対的な拒絶という古典的主張よりも外国人への相対的不寛容や他国との交流制限等の相対的主張を伴っていること、近年の政党国粹主義化は新党結成ではなく国粹主義的グループの既存政党内でのヘゲモニー確立を通じる場合も多いこと、政党国粹主義化の説明要因としては国粹主義的政党リーダーの所在や政党活動規制に関する政治的伝統等各国固有の事情が重要化しつつあること、等の新たな知見が得られた。加えて、レイシズム対応策に関しては、法的規制に積極的なヨーロッパと消極的なアメリカという伝統的傾向が維持されているものの、近年レイシズム対応に関する国際的政策協調枠組みの構築が開始されていること、等が明らかになった。

こうした本研究の成果として、既に日本政治学会、国際政治学会、比較政治学会等の国内学会に加え、International Political Science Association 2018 など有力国際学会で外国語による報告が多数行われ、国内外で各個人の業績が刊行された。今後更に American Political Science Association 2019 報告や本研究の総括国際コンファレンス、英語論文集の出版等により成果公表の予定である。